

平成31年 2月 市長定例記者会見

2019年 2月 1日(金)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成31年 2月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数でございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきますと、ご質問の後はお切りいただきますよう、よろしくご協力をお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、2月の定例記者会見です。よろしくお願いいたします。

最近の出来事としまして、まず日本ゼオンさんの工場増設に伴う起工式が17日に行われまして、参加させていただきました。この新工場では大型テレビ用のフィルムを作って世界中に販売されるということでございますので、敦賀で販売されたものが世界に進出していくということで、非常に期待をしているところです。

また、それに伴いまして、ものづくり産業懇話会というのを去年つくらせていただきましたけれども、産業団地に立地していただいています会社さんも参画していただいておりますが、田結のほうでつくっています産業団地への誘致に関する情報とか、またUターン、Iターンにつながるような情報交換というのもしていきたいというふうに考えているところです。

また、認知症サポーターの優良活動事例特別賞ということで、明日受賞いただきますけれども、昨日は試写会をさせていただきまして、本当に敦賀の町並みが映画の中で出てきたり、敦賀の市民性とかというのが伝わっていくようなものが全国に配布いただくということなので、非常にありがたいなと感じているところです。

今、風邪がはやっております、ちょっと下火になったということも聞いているんですけども、皆さん、ご自愛されまして、また雪が本格的なシーズンになってまいりますので、雪についても十分に対処いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 では、事業の発表につきましては、本日は1事業です。

敦賀市ドライブレコーダー見守り活動に関する協定の締結についてということでありまして、市内全域におけます見守りの目を増やし、犯罪や交通事故の抑止を図る敦賀市ドライブレコーダー見守り活動事業、愛称「見守るカー敦賀」を実施するに当たり、本市と敦賀警察署が協力、連携して広く市民や企業、団体等への普及を図りまして本活動が促進されるよう、2月6日に両者による協定を締結いたします。

本市は、これまでに敦賀警察署との間で、安全で安心な地域社会の実現に向け「安全で安心なまちづくりに関する協定」を締結し、防犯や交通事故防止に係る情報共有等を行っ

ております。今回の協定をもとに、さらに官民連携による防犯活動を強化し、市民生活の安全、安心の確保を図ってまいります。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けしたいと思います。

最初に、幹事社さんからよろしくお願ひいたします。

【記者】 このドライブレコーダーに関してなんですが、昨年末ごろから敦賀市は交通死亡事故が今日にかけて少し増えているような、他の自治体に比べて増えているような印象を持っているんですけれども、そういった交通死亡事故を受けて今回の締結ということになるのでしょうか。

【市長】 交通死亡事故は確かに敦賀市では増えているんですけれども、それではなくて、不審者とか登下校の子供たちが事故に遭うケースがありましたので、それをもとに防犯カメラが設置できないかという議論があったんですが、防犯カメラになりますと、登下校時に一人になるところというのは毎年変わりますし、たくさんありますので、なかなかできないでしょうと。その中で、動く防犯カメラといいますかドライブレコーダーで見守っていただいているということが一つの抑止力につながりますし、情報提供につながっていくというところで協議しておりましたんですけれども、やっとそういう形になってきたというところですよ。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきます。発表項目につきまして、ご質問がありましたら挙手をよろしくお願ひいたします。

【記者】 このドライブレコーダーの見守り活動は、たしか坂井市でもやっていると思うんですが、警察署との協定というのは初めてなのか、それとも県内としては何番目なのか。

【市民生活部長】 県内では既に坂井市でも同様の活動が行われておりますが、市と警察署の間の協定を交わしていないと聞いております。ほかの府県ですと、市の公用車やコミュニティバスによる見守り活動に関するもの、あるいは企業、タクシー事業者、バス事業者等による地域防犯活動に関するものにおいて、市町、警察、協力事業者の3者間で協定を交わしているところがあります。

以上です。

【記者】 特にこの協定の2番目、捜査協力に関すること。ここがどういうふうには実際に行われるのか、手続的にどうなっているのかをもう少し詳しくお伺ひしたいんですが。

【市長】 では、担当のほうからお答えします。

【市民生活部長】 敦賀警察署が犯罪または交通事故が発生した場合において捜査活動に資する必要があると認める場合に限り、会員に情報及び映像の提供を求めます。警察署から会員のメールアドレスに協力依頼内容を送信し、犯人や逃走車両等の特定に結びつくような情報や映像の提供を求めることとなりますが、提供するかどうかは会員の任意となります。

また、協定事項、「提供情報の慎重な取り扱いに関すること」と記載してあるように、提供いただいた映像の確認やデータの取り扱いについては、プライバシーに配慮して慎重に行います。

以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかいかがでしょうか。

【記者】 この協定とは直接関わらないかもしれませんが、郵便局などにもこの活動で協力を呼びかけたり、そういったことは今のところは予定していないのでしょうか。

【市民生活部長】 郵便局に対しても、この事業にご協力いただけるように要請をしているところです。

【市長】 どこと限らず、市内企業にはもうお願いしています。

【市民生活部長】 今後、協力をお願いする予定です。

【市長】 また個人の方もぜひとも登録していただいて、このステッカーを張っていただくだけで、先ほどの質問にありました交通事故も少し減っていくと思いますので、よろしくをお願いします。

【秘書広報課長補佐】 それでは次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思えます。こちらも幹事社さんから、ありましたらよろしくお願ひいたします。

【記者】 市長選に関してなんですけれども、済みません、ちょっと嫌らしい質問になるかもしれないんですが、先日、市議の方が市長選に立候補を表明したということで、恐らくは市長、選挙戦になるかと思うんですけれども、一部からトップダウンではないかと、ハーモニアスポーツ構想とかを引き合いに体制がトップダウンではないかという指摘がありまして、それに関して、市長としてはどういうお考えなのかというのををお願いします。

【市長】 トップダウンかどうかということはどういうことでおっしゃっているかがちょっとわからないんですけれども、いろんな政策につきましては、発想は全ての人から出していただくのがいいと思っています。その中で、これは物になるかならないかということとは議論しないとわかりませんので、その中で、物になるなというものに対しては前に進めていこうということ、私一人で決めるわけにはいきませんので、みんなと共有しながら判断しているということを考えていますけれども。政策を決定する上では、やっぱり上のほうから誰かが決めていかなくてははいけませんので、そういうふうな動きをするものだと思っていますけれども。

【記者】 あと一ついいですか。選挙戦になるというのを、選挙戦というものの自体はどうですか。この前のお話の中で、選挙はしたほうがいいというお考えを聞きましたけれども。

【市長】 質問の意図がちょっとわからないので、ずれたらごめんなさいね。

私は選挙で負託を受けて市長をさせていただいておりますので、4年の任期というのがありますから、当然、選挙があつて選んでいただくのが正しい方法だというふうには思っています。

私の都合で言いますと、選挙をしておかないと、私の周りにいる人たちもだんだん更新していかないとということもありますので、ある程度選挙があつて、そういう意識を市民の皆さんも持っていただきますし、私どもももう一回身を引き締めてやったほうがいいのかというふうには思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いさせていただきます。ご質問がありましたら挙手をよろしくお願ひいたします。

【記者】 金ヶ崎の周辺整備の関係で、その後、JR貨物との用地交渉などで何か進展があるのでしょうかというのと、あと港線が4月に廃止になりますけれども、その利活用も

何かお考えがあるのかどうか、そこも含めてお願いします。

【市長】 進展については担当部長のほうでお答えすることになると思いますけれども。利活用につきましては、敦賀市だけではなくて、大きな事業になりますので、福井県と協議しながらという形になりますので、その辺はいろんなアイデアを出しながら、スクラップ・アンド・ビルドみたいな感じでずっとアイデアを出しながら進めていくことになると思いますけれども、お話しするような中身は持っていないというのが今の現状です。

【産業経済部長】 金ヶ崎のJR貨物の進展でございますけれども、今現在、JR貨物さんがああいう発表をさせていただいたということで、少し、JR貨物さん、そして福井県、敦賀市、そういった3者で協議をしているというところです。中身の詳細につきましてはこれからちょっと詰めていくということで、活用方法も含めながら県とも協議をしておりますし、そういったところで、これからはこういった形で用地を、相手の言い分もございまして、そういったところを出し合ってこれから協議を詰めていくという段階になっているところでございます。

以上です。

【記者】 昨年の12月以降、学校の先生の不祥事等、1月に入ってから臨時職員の逮捕という事案もありましたが、相次いだことに対する市長のお考えと、その後のそれぞれの方に対する処分の状況というのがあれば教えていただけますか。

【市長】 本当に、今おっしゃったように、相次いで起きているということに対しまして市民の皆さんも非常に心配されていると思いますし、不信感ということに対しては非常に申し訳ないなというふうに考えています。

その事案というのが私どもの常識からとんでもなく外れているような行動ですので、何でそういう背景になってしまったんだろうということが、また、じゃ次どうしたらそういうことをしないんだろうということに対しては非常に難しいなということを感じています。個人情報保護法がありますので、その人その人のバックグラウンドというのがなかなかつかみにくいというところがありますので、その辺から根本的にどうなんだということの難しさというのを非常に感じているというところです。

個々の事案については担当のほうからお答えいたします。

【総務部長】 滋賀県の彦根のほうで起きました詐欺事件に関します臨時職員の取り扱い、これにつきましてですけれども、まだ現在、勾留中でありまして、随時、警察署、また弁護士の方とは連絡を密にとっておりまして、どういう状況かというのをしっかり把握した上で、処分するかどうかということも含め、しっかりした対応をとっていきたいというふうに考えております。

【教育長】 教職員のことでございますけれども、処分につきましては、任命権者である県教委がしかるべき対応をするというふうに捉えております。

現在、本市の学校の校長先生を中心に教職員との面談を進めておりまして、服務規律の確保はもとよりなんです、児童生徒への対応等々について、信頼回復に向けて取り組んでいるところでございます。

P T Aの皆さん、また地区の区長さんを初めとして、連携して、先ほど申したように地に落ちた信頼をとにかく回復させるということで、それぞれの学校の教職員が一丸となって取り組んでいるというところでございます。

【記者】 今度はもんじゅの関係なんですけれども、既に発表されているとおり、当初の予定どおりの100体には及ばず、最大91体とおっしゃっていたんですけれども91体にも届かなかったと。事前の計画の立て方、当初の計画の立て方ですよ、年内に100体。それがそもそも1カ月遅れで始まって、でもその体数は変えず、結局また延期したけれどもできなかったということになるんですけれども、機構はそういう計画を立てたとして、現地には文科省の対策監もいながら、きちんと指導、監督ができていますのかどうかというのが疑問に私は思うんですけれども、市長は、文科省の指導、監督体制について何か思うところはあるのでしょうか、特にないでしょうか。

【市長】 文科省の指導に対してというのはなかなか難しいことになりますけれども、100体に届かなかったということに対しては、初めてのことでありますので、当然、達しないことはあるだろうということは考えられるわけなので、過程の途中のところで、じゃそろそろ100体はだめかもしれないという見通しは立つと思うんですよね。それをかたくなに何とかしようという気持ちはわかりますけれども、あらかじめインフォメーションしていただいたほうが、私どもとすると予定どおりに動いているというふうに思うんです。ですから、前に対策監が見えたときにもお話ししましたけれども、その辺のインフォメーションの仕方をもう少し上手にされたらどうですかということも申し上げました。

ですから、実際に指導がどうなのかということに対しては、そこに問題があるというふうには考えてなくて、目標の立て方、発信の仕方というのを少し頑張り過ぎていらっしゃるんじゃないかというふうに感じています。1カ月ぐらい前から八十数体しかできませんと言っておけば、86体、よう頑張ったねとなるんですけれども、91体で頑張っちゃうので、何で頑張れなかったのかということになりますので。

【記者】 ちょっと選挙に絡んでいくかもしれませんけれども、市長として前回、4年前に出馬されたときに出された公約に対する達成率というか、ご自身の中でどこまで進んだんだというのを今どう思われているのかということと、それを何かわかりやすいように、資料というか、そういう形で出される予定があるのかということと、次期選挙に向けた公約というかマニフェストというか、そういうものの今後の出し方についてお伺いしたい。

【市長】 前回の公約につきましては、敦賀市再興プランという第6次総合計画の後期基本計画の中に盛り込みましたので、着手率は100%だというふうに認識しています。それを実現するために着々と進めているというふうなつもりでおりますので、公約に対してはしっかりとやっていると思っています。

次の今度の選挙に向けてですけれども、市長になりまして、いろんなところが見えてきたものとか情勢が変わったものとかがありますので、そういうところはお知らせする必要がありますけれども、今すぐ何か出すのかということとそうではなくて、後援会の入会カードとか年賀会のお知らせなんかを出していますので、どのタイミングでどういうことを出すかというのはまだ決めていない状況です。

【記者】 再興プラン着手率100%はわかったんですけれども、着手してどこまで進捗しているのかなというところがある程度わかるといいのかなというところもあるので、こっちで調べてもいいんですけれども。市民としても、着手はしたけれどもどうなっているんだというところは気になるとは思うんですけれども。

【市長】 なかなか難しいですよ。例えば笙の川をやりますよといったときに、来迎寺

橋はとりあえず、まだ落としていませんので、全体計画からしたら何%と見るかという、なかなかそういう分析は難しいのかなというふうに思いますね。うちの後援会とか私の選挙の準備の中でそれを数字化するのは難しいんじゃないかと思います。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【市長】 先ほどのもんじゅの話ですけれども、総括としますと、やっぱり安全、安心という部分は大事ですので、若干遅れてでも安全に進められているということに対しては評価したいと思っていますし、それが一番大事だと思っています。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。ほかございませんでしょうか。

それでは、これもちまして2月の市長定例記者会見を終わります。

どうもありがとうございました。

午後1時54分 終了